

新日鉄住金エンジ

メタル
床版橋

累計150橋突破

年間受注1000ト、めざす

新日鉄住金エンジン
アリング（社長・高橋
誠氏）が販売するメタ
ル床版橋「角太橋（か



くたばし）」写真の受注が2005年から累計で150橋を突破した。角形鋼管を床版に用いた構造で従来のコンクリート橋に比べ軽量化と施工性が向上。小型重機で施工の受注が2005年か

角太橋は穴あけ加工した角形鋼管を敷き並べ、横串に鋼管を挿入。交点部分にコンクリートを充填・接合し、パネル化する構造。施工日数は1〜2日と超短工期

でコンクリート橋の約半分の軽量が特徴だ。使用重機を小型化できるため、都市部の狭隘地や急速施工に威力を発揮し、トータルコストも抑制できる。従来、新日本製鉄（現・新日鉄住金）が展開していたが10年4

月に旧新日鉄エンジの子会社で橋梁事業を行っていた日鉄トピーブにリッジに移管。その後、旧新日鉄エンジの橋梁事業からの撤退に伴い、現在は新日鉄住金エンジの建築・鋼構造事業部で取り扱っている。移管した10年からは50橋以上を受注。既存の車道タイプに加え、留め具を丸形鋼管からボルト（ハードロック

（ナット）に変えた歩道タイプも展開。また、水切りプレートの採用などユーザーのニーズに応えた改良を加えている。今後は短工期を武器に拡大が見込まれる市町村の道路橋などの震災復興需要やPC橋の老朽更新向けの採用拡大を目指すほか、年度内にもラーメン橋の設計標準化を図る方針。

